

明年九月巴里に開かるべき國際地理學會議に於ける特殊問題

今村學郎

次回の國際地理學會議は來年九月十六日から二十四日までといふ事に内定した。但し前後に見學旅行があるから實際はこの倍位の日數を要すること、思はれる。

次に特に討議の目的として選ばれた問題を列記する。

一、前回よりの繼續研究

これらの問題に干しては各國から委員を出して研究の結果を集め、會議前に印刷して會員に配布し、討論の材料として居る。

1. 聚落地理の研究

ドマンジョンが中心となり、聚落の集合、分散を研究することは誰でも知つて居る通りである。

2. 河段丘及び海岸段丘の問題

現在ではユースタティクの作者は減少したが、それで

3. 歴史時代の氣候變化

4. 山地に於ける動植物の移植

5. 鮮新世洪積世に於ける古地理學的地圖の製作

もフランスにはまだ可成り多い。この人々が、或は存在するかも知れない所の恒久水準をさがして居るのは、むしろその忍耐の強いのに驚くべきだ。こういう次第だから、この委員から提出された報告がユースタティクの運動を主張するのは當然で、報告を読まぬ先から自明の事であつたのである。その上この報告は梗概のみを譯してあるから遂かにその結論のみを信ずることは出来ぬ。地理學評論上には、同じ物を二度まで紹介してあつたが、果してそれだけの價值があるかどうか。現在ではフランス國內にでも反ユースタティクの説が存在して居るのに、あの薄つぺらな報告書一冊で、西地中海の各國の學者が悉くユースタティストのみだと斷じ去るのは、餘りに皮相的な物の見方といふものではないだらうか。

これは例の原始人文景觀の研究に資するため、偶然ドイツ地理學者大會の題目と一致して居る。

6. 百萬分の一ローマ帝國地圖

7. 古地圖の寫眞による複製

二、測量學及び圖學

1. 高山地形

ドイツ流の切峯面や起伏度のやうな大地形論ではなく、侵蝕による小地形を指すのであらう。

2. 空中寫眞

空中寫眞を地理學に應用するの可否を論ずる時代は既に去つた。「地理學のアメリカニゼーション」等の云ひ方は力なき反對である。

3. 地形表現の技術

等高線、ケバ、色階の得失。砂丘、氷河、岩石地等の表し方、縮尺に應じて如何なる方法を用ふべきか、等の問題が擧げられて居る。

4. 熱帶地方に於いて迅速正確に地圖を作る法

5. 以後毎回の國際地理學會議に於いて、各國の陸地測量部に於ける活動の状況を手短かに報告すべきことの提案。

6. 特殊なる圖學上の勞作の展覽

明年九月巴里に開かるべき國際地理學會議に於ける特殊問題

三、自然地理學

1. 小氣候學の定義

ヨーロッパ特にフランスに於ける研究の結果が要求されてある。

2. 氷河性河流

その量、その流れ方、それらの變化。更に河水中に於ける岩屑量及びその侵蝕力。

3. ヨーロッパ、特にフランスに於ける第三紀侵蝕平坦面

その分布を二十萬乃至五十萬分の一にて示し、その起原及び變形を研究する。變形の程度大なるときは、その狀態をエオヒープセンの如きもので示す。その面上にある堆積物は特に注意して記入する必要がある。

4. 將來起りさうな河流の爭奪現象

このために生ずる經濟的影響を考慮し、若し不利益を伴ふときは、爭奪の起らぬやう人爲的方法を用ふること

5. 通常輪廻とカルスト輪廻との干渉

この兩者の一方が優勢となるための條件を知る事が大切である。それは果して岩石の性質のみであるか、地質構造の影響は如何、更に造陸運動や海面變化が全くこの問題に無干係であるかどうか、又氣候變化がある役割りを占めては居らぬか、等々。

6. 乾燥期を有し又は有せぬ熱帶、亞熱帶に於ける地形の特殊なる性質

7. 内陸砂丘

特殊的及び一般的の形態、その地盤との干係、及び最近地質時代の出來事や視在の氣候の持つ意味。

四、生物地理學

1. 栽培植物及び家畜を除いた生物に及ぼす人間の影響

2. 栽培植物の起原と分散

五、人文地理學

1. 工業のローカリゼーション

その地理學的法則とそれに及ぼす運輸の便、不便。特に家庭的の小工業の分布と、その繼續し得るための條件。これらは所謂ジオノミックス一派の正面の問題である。

2. 都市地理の研究

都市の形態發達、及び擴大。交通運輸の持つ意味。都市の擴張案と整理案、都市集中を招いた地理學的條件。都市地理なるものが、所謂地理學的條件だけで満足し得ぬ事を多少暗示してある所が興味をそよる。

3. 熱帶に於ける人類の集合狀態

自然力の影響。過去五十年間の變化と將來五十年間に於

けるそれとの比較。人種の相違による變化。

4. 熱帶地方の交通運輸

5. 寡雨地方の灌溉

6. 人口密度の表現方法

7. ヨーロッパ特にフランスに於いて、航行及び發電のために河流を用ふる上の地理學的特に經濟的の諸條件

六、歴史地理學

1 十六世紀以降ヨーロッパ各國に於ける近代製圖術の起原

2. 古旅行記類の目錄及びその批判的研究（特にフランス干係のもの）

3. 古圖學的記錄の批判的研究

汀線の變化、河流の變遷、森林の面積、耕地の廣さ、村落の消長等を發見せんとする企である。

4 十七世紀以後のフランス以外の探險家の旅行記の内未刊のもの研究

見學旅行

會議前四回、會議後四回の豫定である。面白さうなものを二三あけて見ると、前の方ではアルボス指導のオーヴェル

ニユ(六日間) プラツシ指導のドウフ、ネー、アルプ(七日間) ショレー及びシャポー指導のジエラ及びサボアの前アルプ(十日間) 等がある。特に三番目のものは、指導者が二人ともこの地方を主題としてテーマを書いたのだから必ず面白いと思ふ。

會議終了後には、ドマンジョン指導のバリールアンアーグ(五日間) ヴェネヴァン指導のプロヴァンス(七日間) があり、後者はそれ程の興味もなさうである。一寸變つて居るのはベルナル指導のアルジェリアの旅行(十三日間) で旅行によつては非常に面白い旅行となると思はれる。

この短い報告も氣早だが、以上の遠足に對する申し込みを今年一杯としたのも亦大したあはて方であると云はねばなるまい。

巴里地理學研究所にて(五、五、一六)

新著紹介

○「土木地質學」工事編

渡邊貫著 菊判二四〇頁、

工業雜誌社發行 二圓五十錢

本書は先年發行された土木地質學の改訂三版であつて、次に出る理論編の姉妹篇である。改訂前のものは工事の現場に臨む人にとつて未だ不便の箇所が多かつたが此の度新に地下水と隧道工事、堰堤工事と地質、附録として岩石の分類、地

新著紹介

質調査は如何なる仕事かの各項を加へて愈々使用者の便を加へた。土木地質學なる應用方面の著書は實に渡邊學士の改訂前の本著をもつて我國に始めて現れたのであつたから多少不便はあつたにして土木事業者を益したことは甚大であつた。

著者は其の後も常に本書の成長を計つて改訂版を益に出すと共に更に理論篇を公にせんとするに至つたことは我々の寔に感謝する所である。語學をよくする著者が英獨佛の各國の著書の中から我國に必要なものを選ぶに當つて丹那隧道地質調査以來の經驗を以つてしつゝあることは我々の最も信をおくことの出来る點で、本書中に滿載する圖版は迂遠なる理窟を避け我々にとつて最も大切なもののみであるから地形、地質の教材として用ゐても頗る有益である。印刷圖版とも頗る明瞭、活字は九ポイント十八行詰であるから近頃續出する五號活字の十四行前後の著書の二倍の量を包含してゐる。(本問)

○長野縣下水内郡地質誌

君塚康治郎著 菊判七四頁

長野縣下水内教育會發行 非賣品

長野縣に於ける郷土研究の旺んなるは全國に其の比を見ざる所で、既に各郡から出版された學術の専門的著述が甚だ多いが本書も下水内教育會が郷土研究の一事業として郡内の地質調査を計畫し、理學士君塚康治郎氏を委嘱したものである。野業一ヶ月餘、研究室の仕事一年餘の間になされた仕事で北部は目石の大村技師の調査を參照し、南部は本間理學士の